

One awareness changes your life



Touch Our Technology !

テクノロジーが生み出す、私たちの未来図を創造しよう。



感動のそばに、いつも。



HUAWEI

1 プログラムの特徴	P 2
2 提供価値	P 3
3 授業内容について	P 4
4 コンテストについて	P 9
5 実施までの流れ	P 10
6 お問い合わせ先	P 11

◇会社紹介◇

華為技術日本株式会社(ファーウェイ・ジャパン)

ファーウェイは、1987年に中国・深センに設立された従業員持株制による民間企業です。世界170か国以上、30億人にもおよぶ人々に様々な製品やサービスを提供しています。2005年に設立されたファーウェイ・ジャパンは、従業員の78%以上が現地採用です。日本国内4ヶ所の研究開発センターとラボにおいて、グローバル市場に向けた技術の研究や部品・部材の調達を実施しています。

日本国内におけるCSR活動では、『復興支援活動』『環境保全』『グローバルICT人材育成』をテーマに様々な活動を行っており、設立当初から実施している「未来の種Japan(Seeds for the Future)」には、80名以上の大学生・大学院生が参加してきました。2020年からは中学校・高等学校向けの取り組みを開始しており、今年度より授業の内容をバージョンアップすると共に、株式会社JTBと協業を行って取り組みを推進しております。

1. プログラムの特徴

2021年度より中学校、2022年度より高等学校にて学習指導要領が改訂されました。中でも『**情報活用能力の育成**』は、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、学習活動の充実を図ることが求められています。

このプログラムの目的は、生徒が「プログラミング教育」や「情報」の授業などの**新たな学びに向かう力の育成**と、テクノロジーを活用して問題解決や探究をしていくために必要な**プログラミング的思考の基礎**を、“ワクワク”しながら学ぶこととしています。

■情報活用能力の要素の例

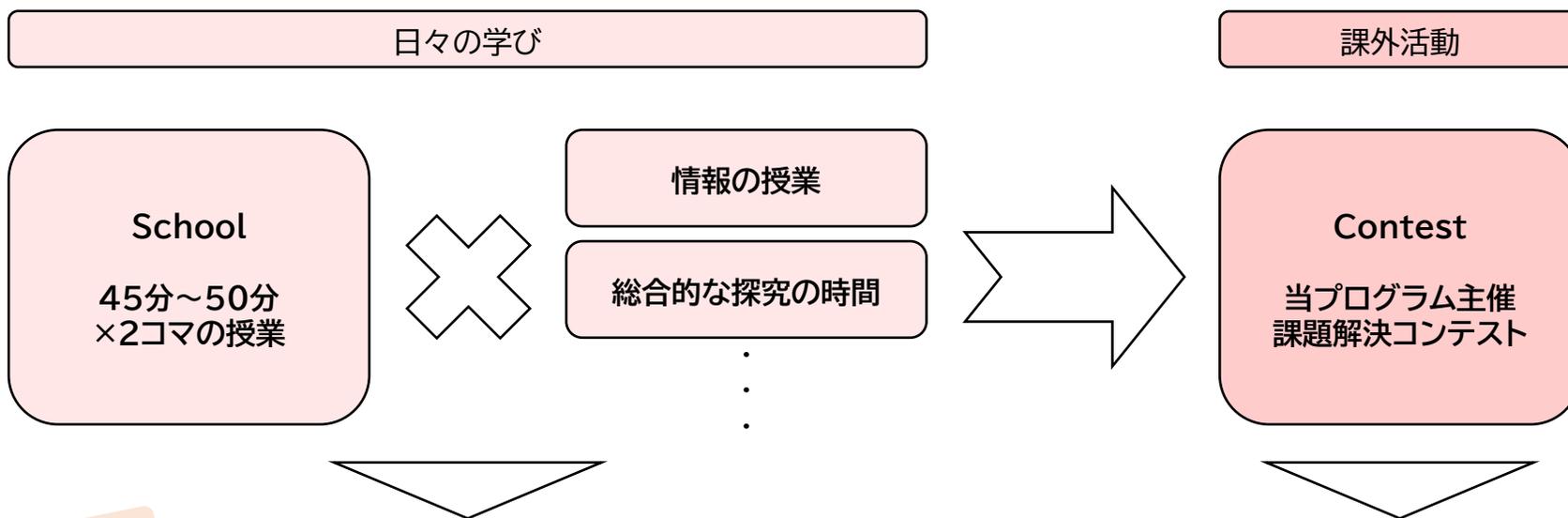
A.知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解
	2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解
	3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解
B.思考力、判断力、表現力等	問題解決・探究における情報を活用する力 1 (プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力
C.学びに向かう力、人間性等	1 問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度
	2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度

当プログラムが提供したい学びの要素はここです！

文部科学省
「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」より

よく分からないTechnologyから、仕組みが分かるTechnologyへ！
分かるからもっと学びたい。知っているから新しい技術を活用したい！

当プログラムは、90分間の学習と希望者を対象としたアイデアコンテストで構成されています。
90分の社会で活躍する大人との対話を通じて、『日々の学びに向かう動機』を生み出し、
日々の学びを通じて培った探究心を発揮する場として、アイデアコンテストに出場して貰いたいと願っています。



学びポイント！

- 最先端の情報技術に関わる大学の先生からの講義を聞くことができます。
- ICTの実例をもとに、“テクノロジーを活用する”ということ学びます。
⇒WEBや新聞、テレビでは分からない生の情報を知ること、生徒の興味関心を生むきっかけに繋がります。
- 授業内でグループワークを実施し、テクノロジーを為の考え方(プログラムの思考の育成)の体験ができます。
- コンテストに出場することで、自身が探究的に学んだことを発表し、実践を通じた学びを深めます。
⇒主体的に情報を収集、活用し、問題を解決に導こうとすること、
また社会や地域の人と対話をしてアイデアを深めることは、より深い学びの実現につながります。

プログラムのテーマ

テクノロジーが生み出す、私たちの未来図を創造しよう。

プログラミング教育の目的とされる『プログラミング的思考』を通じて鍛えられる論理的思考力は、これからの社会を生き抜く為に、非常に重要です。授業を通じてプログラミング的思考の育成を行い、また培った能力を活かして、アイデアコンテストに参加を期待しています！



* プログラミング的思考とは：自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力。(文部科学省「小学校プログラミング教育の手引き」)

基本要件

受講対象:全国の高校1～2年生 または、中高一貫校の中学3年生

授業時間:45～50分×2コマの連続する授業として実施 ※学校様のご要望により、授業時間の変更も可能です。ご相談ください。

実施目的:● テクノロジーや情報通信に対する、生徒の興味関心を喚起して、明日の学びに向かう意欲に繋げること。

● 生徒の課外活動を支援することで、多様なキャリアの可能性を広げること。

授業内容

1. 講演(テクノロジー全般について)

大学で、情報通信技術や情報メディアなどに関わる研究を行う先生からの講演を実施いたします。
『テクノロジーが変革する私たちの未来の可能性』をテーマに、未来図に対するイメージに繋がるような最先端の技術について紹介を行い、生徒の興味関心を訴求します。

2. 講演(情報通信技術について)

私たちの生活を、特に身近で変革しているICT技術について掘り下げて、ファーウェイの社員さんが講演を行います。
ICT技術の基礎知識について解説すると共に、ファーウェイが取り組む世界の事例を紹介することで、問題の捉え方と、それに対する技術の活用について理解を深めていきます。

3. グループワーク(ICT技術の活用について)

学校ごとに設定したテーマに沿って、社会課題に対する「技術を活用した解決策」をグループごとに考えます。
授業中に発表を行った後、ファーウェイの社員さんから講評をいただき、技術の使われ方についての学びを更に深めます。

3. 授業内容について(詳細)

1コマ目の 授業内容

1. 趣旨説明／アイスブレイク(10分)
2. 研究者による講演(20分)
3. ファーウェイによる講演(15分) 計45分



	趣旨説明 アイスブレイク	研究者による講演	ファーウェイによる講演
授業形態		研究者による授業	ファーウェイ社員による授業
授業内容	テクノロジーを学ぶ大切さを知る ●プログラムの構成とゴールについて ●アイスブレイク ●講演を聞く際のポイントを説明	変革する未来を知る ●研究者の方が関わる技術を紹介 ●その技術がどのように社会に役に立つか ●テクノロジー活用が私たちの生活にもたらす良い影響について など	事例を知る ●ファーウェイとはどんな会社なのか ●ICTの基礎知識について ●ファーウェイが取り組む事例について など
備考		※講師例は別紙をご参照ください。貴校の実施希望日時に合わせて講師をアサイン致します。 ※講師のスケジュールによって、オンライン講演となる場合があります。	※都合により、オンライン講演となる場合があります。

※副教材として、ワークシートを配布致します。

※ご講演いただく研究者の情報については、別途お問合せください。

3. 授業内容について(詳細)

2コマ目の 授業内容

1. グループワーク(25分)
2. 発表／質疑応答／講評(20分)

計45分



	グループワーク	発表	質疑応答／講評
授業形態	JTBファシリテーターによる進行	代表生徒による発表	ファーウェイ社員及び研究者との対話
授業内容	<p>テクノロジーの活用方法を考える</p> <p>4～6名1組のグループに分かれて、社会課題を解決する為のアイデアを考える。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●希少生物を保護するアイデアを考えよう ●大雨で河川が氾濫する地域を救うアイデアを考えよう 	<p>考えをまとめて伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに考えたアイデアを発表 ●発表を聞いているグループは、発表しているグループに対するフィードバックを記入。良かった点を共有し合う 	<p>更なる学習意欲を喚起する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発表内容全体に対して、フィードバック
備考	※学校様のご都合に合わせて、グループワークの時間は延長／短縮も可能です。	※発表時間は、1グループ30秒～1分を想定しております。	

※副教材として、ワークシートを配布致します。

4. コンテストについて



23年2月頃にテクノロジーの活用を通じた社会課題の解決に挑む、コンテストを実施いたします。

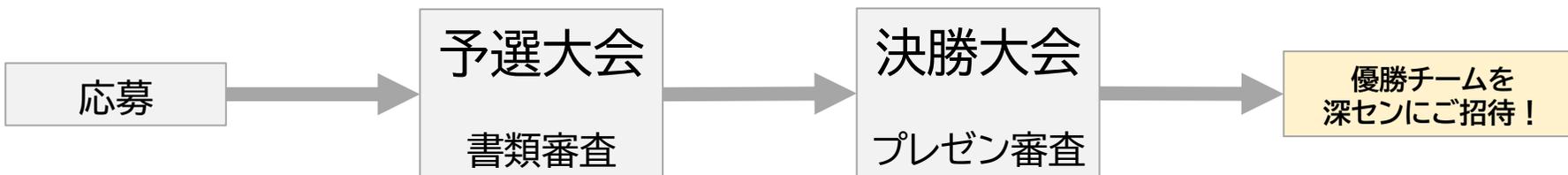
コンテスト テーマ

あなたの街の未来を想像しよう。

生徒と企業、自治体など、地域に関わるあらゆるステークホルダーが持続的に住み続けられる未来の為に、自分の住む町の社会課題を技術で解決するアイデアを提案／発表して頂きます。
優勝チームは中国深センにあるファーウェイのグローバル本社へのご招待を予定しております。

実施要項（予定）

- 課題 テクノロジーを活用して地域をよくするアイデアを考えてください。
- 評価軸
 1. 使命感(どれだけ地元のことを考えてるか)
 2. 貢献度(本当に地域の為、みんなの為になっているか)
 3. 発想力(組み合わせのうまさ)
 4. 論理性(具体的な計画がされているか)
- 実施の流れ



*実施時期や要項は、現在協議中となります。

*当プログラムの事前授業を実施した学校の生徒は、応募時の予備審査が不要です。授業を実施していない学校の場合は、応募時に予備審査があります。

*優勝チームの『深センご招待』は、決勝後の世界情勢により変更となる場合があります。ご容赦ください。

5. 実施までの流れ(制作関連)

①お申込み

全国の弊社教育営業拠点、または運営事務局までお問い合わせください。

ご希望日時の
2か月前まで

②実施日時の調整

講師のスケジュールを確認の上、ご希望頂いた日時での実施可否をご返答いたします。

③実施に向けた 打ち合わせ

実施場所や設備の確認、また授業内容の調整など打ち合わせを実施いたします。

④授業当日

学校様にお伺いをして授業を実施いたします。
オンライン講演の場合は、弊社社員がお伺いしてWEB会議システムを繋ぎ、進行いたします。

コンテストお申込み

ご興味をお持ちいただけましたら、学校様からコンテストのお申込みを実施してください。
生徒さんからの直接のお申込みはお断りしております。

6. お問い合わせ先

運営事務局

株式会社JTB 横浜支店
『Touch Our Technology!』 運営事務局 担当:渡邊

お電話 : 045-316-2353
メール : h_watanabe105@jtb.com

※営業時間は平日の9時半～17時半までとなります。
※当社では、新型コロナウイルス感染症の影響および拡大防止に向けた対応として、当面の間、リモートワーク体制としております。
お問い合わせはメールでお願い致します。3営業日以内にご返答をお送り致します。